

### 【検討の状況】

- ・今後中和幹線沿道の開発が進み、地域外からの人の流れも予見されるため、安全な歩行空間の整備が必要
- ・地域には多様な世帯が存在するものの、それぞれのコミュニティ間でのつながりが薄く、ポテンシャルが活かされていない現状

地域の主要拠点である、大福駅、小・中学校、コミュニティ施設、医療・福祉施設、中和幹線沿道商業施設群を歩行者の安全性に配慮して繋ぐ  
また、生活道路を地域の歩行空間とし、回遊性を持たせることで地域の交流・活性化を図り、多様な世帯が暮らし続けられるまちを目指す

### ①行政主体の歩行空間整備

コンセプト：地域のお手本を示す  
公有地（県営住宅）内の歩行空間整備を通じて、地域住民が快適に歩ける空間モデルを演出。最初に“お手本”を示すことで、その後の住民による取り組みへと繋げていく。

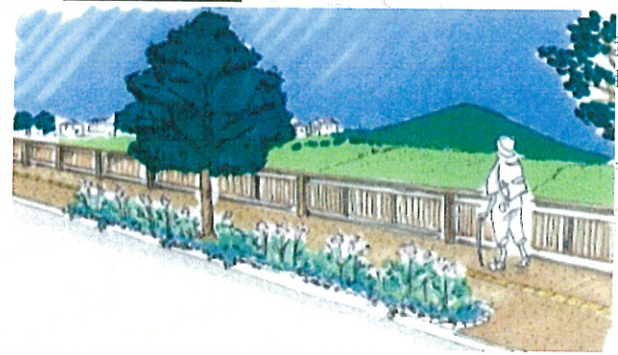
- 1, ニーズ把握（県市）
- 2, 取組計画の策定（県市地域）
- 3, 県住敷地での実証実験（県市）
- 4, 整備計画の策定（県市地域）
- 5, 県住敷地での整備（県市地域）
- 6, 中和幹線へ、取り組みの拡がり（市、地域）⇒②地域との協働へ



### 『(仮)大和を見晴らす大福中津道』

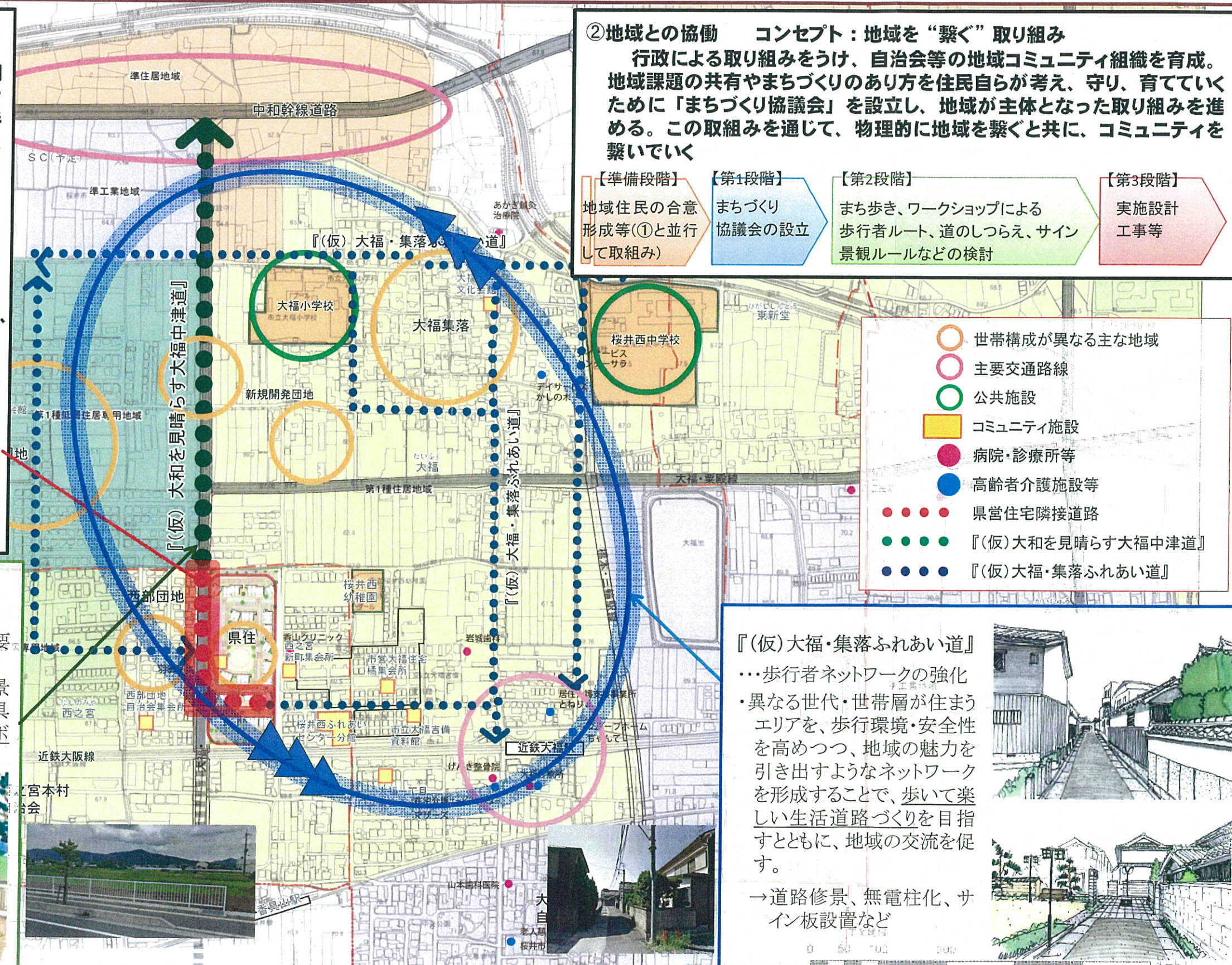
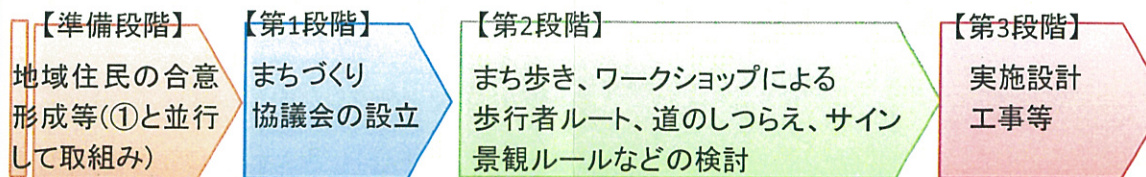
…シンボルロードの形成

- ・大福出垣内線は、地域南北を結ぶ主要な幹線道路
- ・道路の構造・幅員を活かし、地域の景観資源である三輪山や耳成山、香具山などを見晴らすことが出来るシンボルロードとする



### ②地域との協働 コンセプト：地域を“繋ぐ”取り組み

行政による取り組みをうけ、自治会等の地域コミュニティ組織を育成。地域課題の共有やまちづくりのあり方を住民自らが考え、守り、育てていくために「まちづくり協議会」を設立し、地域が主体となった取り組みを進める。この取り組みを通じて、物理的に地域を繋ぐと共に、コミュニティを繋いでいく



- 世帯構成が異なる主な地域
- 主要交通路線
- 公共施設
- コミュニティ施設
- 病院・診療所等
- 高齢者介護施設等
- 県営住宅隣接道路
- 『(仮)大和を見晴らす大福中津道』
- 『(仮)大福・集落ふれあい道』

### 『(仮)大福・集落ふれあい道』

…歩行者ネットワークの強化  
異なる世代・世帯層が住まうエリアを、歩行環境・安全性を高めつつ、地域の魅力を引き出すようなネットワークを形成することで、歩いて楽しい生活道路づくりを目指すとともに、地域の交流を促す。  
→道路修景、無電柱化、サイン板設置など

